

大基委大評第 149 号  
平成 25 年 3 月 15 日

成 城 大 学  
学 長 油 井 雄 二 殿

公益財団法人 大学基準協会  
会 長 納 谷 廣 美



貴大学の「完成報告書」の検討結果について（通知）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「完成報告書」を、大学評価委員会において慎重に審議を行いました結果、別紙の通りとりまとめましたので、ご通知いたします。

敬具

記

添付資料 「完成報告書検討結果（成城大学）」

以上

## 〈 完成報告書検討結果（成城大学社会イノベーション学部） 〉

### [1] 概評

2008（平成20）年度の本協会による大学評価に際し、貴大学社会イノベーション学部は、評価資料を提出する4月段階において申請資格充足年度（標準修業年限+1年）を経ておらず、教育・研究活動に関する評価を十全には行えなかった。よって当該学部の完成時の状況を、完成報告書として取りまとめることを求めた。

今回提出された完成報告書からは、同学部は、社会に新たなものを創造する力を持つ人材を育成することを目標とし、それに基づき教育・研究活動を行っていることが認められた。

教育課程は、教養科目に相当する「総合教育科目」「一般共通科目」「学部共通科目」、イノベーションに関連した科目群「専門科目」「基礎科目」、実践的英語活用能力を涵養するための「外国語科目」をバランスよく配置し、教育目標の実現に取り組んでいる。ただし、専門教育への導入として「イノベーション概論」「データ分析入門」「情報リテラシー」等の必修の基礎科目を配することで、イノベーションに関連する基礎的な知識や基盤的な技能の涵養を図るとともに、大学での学習のあり方等についても指導しているものの、大学教育そのものに重点を置いた導入教育の検討が望まれる。また、英語による発信力教育の充実に重点を置いているのであれば、人間力を高める実質的な国際交流を実施したり、日本語による表現にも重点を置いていることを踏まえたイノベーションを具体化するための表現方法を養う教育を充実することが望まれる。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動はおおむね適切に実施されている。ただし、今後のイノベーション教育をいかに行き、その成果を評価するかについて学部独自のFD活動を促進することが望まれる。

年間履修登録単位数の上限設定については、52単位と多いので、単位制度の趣旨に照らして、改善が望まれる。

以上のことから、年間履修登録単位数の上限設定に問題が見受けられるものの、目標はおおむね達成されていると判断される。

### [2] 今後の改善経過について報告を求める事項

なし

以上